

2022年12月16日

H&L企業研究クラブ

【ビジョナリーホールディングス (9263) : 2023年4月期第2四半期決算速報】

ビジョナリーホールディングス (9263) の2023年4月期第2四半期決算が12月15日に公表されたので、それについて報告する。

2023年4月期第2四半期累計決算は3.1%増収で、営業利益は前年同期の404百万円の赤字から330百万円の黒字へと転換した。第2四半期決算の3カ月では3.9%増収、営業利益は4.6倍となった。

決算期 (連結)	売上高 百万円	伸率 %	営業利益 百万円	伸率 %	経常利益 百万円	伸率 %	純利益 百万円	伸率 %	EPS 円	PER 倍
2021/10中間実績	13,052	-0.8	-404	赤転	-163	赤転	-395	赤転	-	-
2022/4下期実績	13,016	0.9	284	黒転	403	59.9	-1,217	赤大	-	-
2022/10中間実績	13,454	3.1	330	黒転	554	黒転	324	黒転	-	-
2023/4下期ARJ予想	13,442	3.0	414	黒転	437	黒転	225	黒転	-	-
2023/4下期ARJ予想	13,544	4.1	404	42.2	364	-9.7	244	黒転	-	-
2019/4期実績	26,485	21.6	932	33.0	852	48.7	499	-29.8	13.5	13.7
2020/4期実績	27,338	3.2	-212	赤転	-332	赤転	-1,166	赤転	-	-
2021/4期実績	26,059	-4.7	338	黒転	895	黒転	86	黒転	2.3	79.7
2022/4期実績	26,068	0.0	-120	赤転	240	-73.2	-1,612	赤転	-	-
2023/4期会社予初	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2023/4期ARJ予	26,998	3.6	734	黒転	918	282.5	568	黒転	15.4	12.1
2023/4期ARJ予旧	27,121	4.0	926	黒転	909	278.8	542	黒転	14.7	12.7
22/4 1Q実績(3ヵ月)	6,564	2.6	-434	赤転	-301	赤転	-450	赤転	-	-
22/4 2Q実績(3ヵ月)	6,488	-4.1	30	-90.4	138	-61.3	55	-78.4	-	-
22/4 3Q実績(3ヵ月)	6,745	4.6	122	16.2	137	-48.3	-7	赤転	-	-
22/4 4Q実績(3ヵ月)	6,271	-2.7	162	黒転	266	黒転	-1,210	赤大	-	-
23/4 1Q実績(3ヵ月)	6,714	2.3	192	黒転	235	黒転	94	黒転	-	-
23/4 2Q実績(3ヵ月)	6,740	3.9	138	360.0	319	131.2	230	318.2	-	-
23/4 3QARJ予(3ヵ月)	6,812	1.0	122	0.0	102	-25.5	68	黒転	-	-
23/4 4QARJ予(3ヵ月)	6,732	7.4	282	74.0	262	-1.5	176	黒転	-	-

同社は2021年4月期第4四半期、2022年4月期第1四半期と販売促進や店舗投資に注力したため大幅な赤字となったが、その後は5四半期連続して黒字決算としている。ただし、前通期決算は第1四半期の赤字が大きくその後の3四半期でカバーできず営業赤字に終わった。それに対して今期に関しては第1四半期から経費をコントロールし、通期で黒字を達成するとしてきたことを反映したものである。

ただし、本来ならもう少し利益面では上振れてもおかしくはなかった。前年同期がコロナ感染者数の急増とそれに対する緊急事態宣言の発動もあって既存店が厳しかった割に、今第2

四半期の既存店は1.1%増と伸び悩んだため、利益の伸び率もやや低めにとどまった。

一方、四半期売上高は第1四半期の2.3%増収に対して、第2四半期は3.9%増と増収率が高まっている。これは、卸売事業の売上高が68.8%増と大幅に伸びたためである。卸売事業の増収率は四半期ごとにかなりばらつくが、前年度第2四半期の売上が12.9%減であったのに対して、今第2四半期には展示会での商談成功があった模様であり、高水準の伸び率となった。小売業のみの増収率を取れば、第1四半期の3.2%増に対して、第2四半期は2.1%増収と既存店同様伸び率は低下している。

現時点では決算説明会前であり、詳細な決算内容の開示はない。しかし、同社はコロナ下の厳しい環境下においても着実に体質強化の施策を行っており、非効率な小型店舗を閉鎖し、全店舗数は減らしながら、店舗の大型化を進めている。それによって、人員効率を大きく高めることに成功した。また、顧客の予約来店率を高めることも人員効率化に寄与している。それらの施策の反映が、今期の業績回復の背景となっている。

第3四半期決算に関しては、前年度において11月、12月とコロナ感染者数が低水準で推移したこともあり、既存店伸び率がコロナ前との比較でもかなり高水準で推移した。しかし、今期に関しては現時点で急速に感染者数が増えていることもあって、やや既存店は低迷することも考えられる。よって、第3四半期の3ヵ月のみを取ると、営業利益が場合によっては前年同期並み、あるいはマイナスとなることも考えられる。

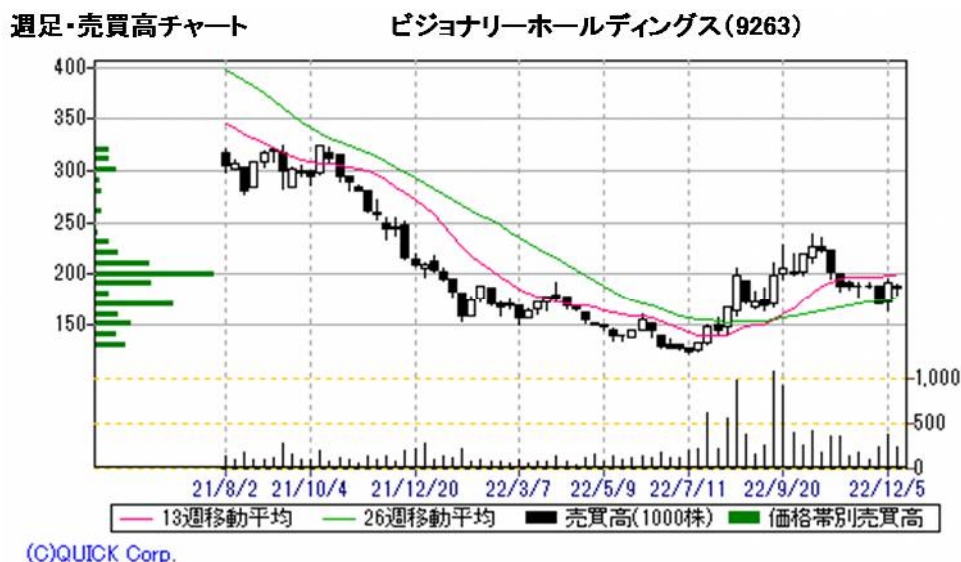
しかし、メガネ業界にとっては同社の第4四半期に当たる3-4月が最も書き入れ時であり、これまでのコロナ感染者数の増減パターンから言ってもその辺りは感染者数が落ち着きを見せる可能性もある。よって、業績の回復傾向は第3四半期決算で一旦ひと段落する可能性はあるが、第4四半期で再び盛り返して、通期は高水準の黒字決算となる可能性が高いと考えられる。

会社側ではコロナの感染者数次第で業績が大きく変動することもあって、今期業績予想を開示していない。それに対して当クラブでは上期実績値も踏まえて、3.6%増収、営業利益は前期の120百万円の赤字から734百万円の黒字への転換を見込む。なお、第1四半期決算終了時点の予想との比較では、売上、営業利益ともそれぞれ減額修正としている。ただし、経常利益は前回予想の909百万円に対して、今回予想は918百万円となっている。これは当クラブ予想ではコロナによる雇用調整助成金を見込んでいないが、今回予想では第2四半期までの実績の174百万円を織り込んだためである。なお、雇用調整助成金を除いた実質の今期予想EPSは13.3円、予想PERは13.9倍となる。

投資判断

レーティングは引き続き BUY 継続とする。同社の前期決算は営業赤字で、今期予想を開示していないことから、市場参加者の多くは同社の今期業績に関してネガティブに見ていると考えられる。それに対して、すでに第 1 四半期決算発表においてポジティブサプライズ的な株価の反応を示した。

しかし、それはあくまで短期的なレスポンスであって、その後は再び第 1 四半期決算発表前の株価水準近辺まで戻っている。今回、第 2 四半期決算においても継続的な業績回復を確認したことにより、さらに同社業績に対する安心感が増すと考えられ、当面、前回より安定的な株価上昇基調となる可能性があると考えられる。



より詳細な過去のレポートはこちらからダウンロードできます。

<http://cherry100.mods.jp/ra/s/1420>

注意事項

当レポートの株式に関する記述は、投資の勧誘を目的としたものではありません。情報の内容も私の観測であり、不確定要素を多く含みます。当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社では一切の責任を負いません。投資判断はすべて自己責任にてお願い致します。